学生・一般の部暗誦課題文　狼来了（狼が来た）

昔々、ある羊飼いの少年が、毎日山へ行って放牧をしていました。

ある日、彼はとても退屈でたまらなかったので、人をからかって楽しもうと思いました。彼は、山の下で農作業をしている人々に向かって、大声で叫びました。「狼が来た！狼が来た！助けて！」人々はその叫び声を聞いて、急いで鋤や鎌を手にして山へ駆け上りました。彼らがハアハアと喘ぎながら山に着いて見ると狼の姿などはありませんでした。羊飼いの少年は、アハハと大笑いしました。「ああ、面白い！みんな罠に掛かった。」みんなは腹を立てて帰りました。

次の日、羊飼いの少年はまた同じことをして、善良な人たちは、狼を追い払って彼を助けるために駆けつけました。しかし、狼の影さえも見当たりませんでした。羊飼いの少年は、お腹を抱えて大笑いしました。「ハハハ！みんな又騙された！」　みんなは、少年が一度ならず二度、三度と嘘をつくことにとても怒って、これから二度と彼の話は信じないことにしました。

数日後、狼が本当にやって来ました。羊飼いの少年は、とても怖くて必死に叫びました。「狼が来た！狼が来た！早く助けて！狼が本当に来たよ！」みんなはその叫び声を聞きましたが、また嘘を言っていると思って、誰も相手にしませんでした。結局、少年の飼っているたくさんの羊がかみ殺されてしまいました。

# 牛　郎　織　女

昔々、牛郎という名前の心優しい孤児がいました。彼が山で仕事をしていた時、病気をした年老いた牛に出会い、家に連れて帰り、全力を尽くして世話をし、一緒に暮らしました。牛郎は牛が元々天にいる神様であることを知りませんでした。

ある日、天にいる織女と仙女たちが地上に降りて遊んでいました。牛郎は老いた牛の教えで、織女と知り合い、互いに愛が芽生えました。その後、織女は密かに地上に降り、牛郎の妻になりました。彼らは、一男一女に恵まれ、牛郎が畑を耕し、織女が機を織り、円満で幸せな生活を送っていました。

天にいる王母娘娘（神様の名前）は非常に怒って、人を派遣して、織女を天に取戻しました。牛郎は天に上る方法がなく、大変心配していました。その時、牛が突然口を開きました：“牛郎、すぐ私を殺し、私の皮を被ると、天へ織女を探しに行くことができるよ。”牛郎は涙を流しながら、牛を殺し、牛の皮を被り、二人の子供を連れて、雲や霧に乗り、天に到着しました。牛郎が織女と再会しようとした寸前、王母娘娘に見つけられました。王母娘娘が頭上の銀簪を抜き、一振りをした途端、直ちに銀河が現れました。牛郎と織女は銀河の両岸に引き離され、向かい合って泣いていました。彼らの愛情に天にいる喜鵲が感動しました。千万羽の喜鵲が飛んできて鵲橋（カササギの橋）を作り、鵲橋で彼らを逢わせました。王母娘娘はこの光景を見て、かわいそうだと思い、彼らが毎年農歴の７月７日に鵲桥で会うことを認めました。

これは、七夕の由来です。牛郎と織女の愛の物語は、美しく感動的で、数千年にわたり言い伝えられてきました。現在、七夕は中国のバレンタインデーになっています。